

日本電気本社ビル(NECスーパータワー) 特集によせて

Remarks for Special Issue on NEC's Head Office Building (The NEC Super Tower)

取締役会長
中村 兼三
Chairman of the Board and Director
Kenzo Nakamura



当社の創立90周年の中核事業として進めてきた日本電気本社ビル(NECスーパータワー)建設は、昭和61年11月21日に着工以来、3年2カ月の工期を経て平成2年1月31日に完成しました。現在本社スタッフおよび営業部門を中心に約6,000人が勤務しております。

この日本電気本社ビル(以下、本社ビルと略す)は、風抜穴を空けた建物の形状とともに環境を重視した21世紀へ向けての新しいタイプの超高層インテリジェントビルとして注目され、東京の新しいランドマークとして、広く世の関心を集めております。

さて、当社の永年の夢の実現である、本社ビルを建設するという、この一大プロジェクトが社内で具体的検討に入ったのは、今から約10年ほど前のことでもあります。当初は、極く限られた範囲でのプランニングでありましたが、ある程度の方角づけができ上がった昭和57年8月に「本社ビル建設本部」を発足させ、建物を建てる上での諸事項の検討に当たらせました。引き続き昭和58年12月に「本社ビル建設委員会」を発足させ、全社プロジェクトとして取り組むこととして、計画を進めた訳であります。

まず、建物の計画を推進するに当たっては、このビルが東京都環境影響評価条例の適用第1号であることを念頭におき、キーワードを「環境」として、地域の生活環境との調和を最優先するとともに、快適なオフィス環境を創出することとして計画いたしました。

一方、建物の具体的中身につきましては、当社の企業理念である「“C&C”をとおして、世界の人々が相互に理解を深め、人間性を高度に発揮する心の豊かな社会をつくりあげていく」ことの具現化を目標に、わが国でも最先端の心温まるインテリジェントビルとして計画いたしました。ややもすると今までのインテリジェントビルのイメージは、コンピュータやネットワークと

いう機械を中心に据えた感がありましたが、C&Cシステムによってつくるインテリジェントビルは、そこに働く一人ひとりの“個”というものを尊重しながらしかも全体としての一体感を持って仕事をしていけるような次世代のインテリジェントビル、すなわち、ホロニックビルづくりに挑戦した訳であります。したがって、この本社ビルは建物全体が当社の将来の夢を託したC&Cシステムのショーケースでもある訳です。

当社では今後、このビルを“C&C”の技術や理念を広く理解していただくために一人でも多くの方々に見ていただき、21世紀に向け、当社が大きくはばたくためのツールとして、積極的に活用していく考えであります。また、このビルが地域の方々を始め一般に親しまれ、愛されるように努力していく所存でありますのでよろしくお願い申し上げます。